

## 第10回東北地方交通審議会 議事要録

日 時：平成19年3月28日（水）14：30～16：00

場 所：ホテル 仙台プラザ 3階 松島

出席委員：一力委員

稲村委員

奥村委員

熊谷委員

清水委員

幕田委員

丸森委員

田浦臨時委員（渡邊 企画部長）

若狭臨時委員

工藤臨時委員

倉茂臨時委員

三船臨時委員

湯村臨時委員

青木臨時委員

高橋（正二）臨時委員

高橋（泰博）臨時委員（瀧澤 広域調整部長）

三村臨時委員（小林 新幹線・交通政策課長）

増田臨時委員（藤尾 地域振興部長）

村井臨時委員（高橋 企画部次長）

寺田臨時委員（増田 建設交通部参事兼建設交通政策課長）

齋藤臨時委員（三浦 土木部次長）

佐藤臨時委員（藤澤 生活環境部政策監）

梅原臨時委員（中村 都市整備局長）

※委員は五十音順

※（ ）は代理出席者

運 輸 局：佐伯東北運輸局長、添田東北運輸局次長、三橋企画観光部長

西條交通環境部長、鈴木鉄道部長、秋村自動車交通部長、松本海事振興部長、

三上自動車技術安全部長、飯田交通企画課長

## 次 第

1. 開 会
2. 東北運輸局長あいさつ
3. 議 題
  - (1) 会長選任、会長代理指名
  - (2) 政策推進部会からの報告
  - (3) 答申のフォローアップ
  - (4) 観光WG（仮称）の設置
3. 閉 会

## 議事要録

### 1. 開会

#### 事 務 局

それでは、お時間となりましたので、ただいまより第10回東北地方交通審議会を開催させていただきます。会長が選任されるまでの間、東北運輸局企画観光部交通企画課の飯田が進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

最初に、委員の出席状況についてご報告致します。本日は、委員及び議事に関係のある臨時委員26名のうち、23名が出席されておりまして、地方交通審議会規則第7条第1項の定足数を充足しております。

本日は、まず東北地方交通審議会の会長をご選任いただきます。続きまして、前回の東北地方交通審議会でご承認いただき、新たに設置された政策推進部会がこれまでに2回開催されておりますので、それらの審議内容についてご報告いただきます。そして、第8回東北地方交通審議会で行った答申のフォローアップ、具体的には、交通や観光に関する現況や答申に盛り込まれております施策の実施状況などについてご審議いただきます。最後に、平成19年1月に施行された観光立国推進基本法を踏まえた、東北地方の観光基本計画の策定を目的としたWGの設置についてご審議いただきます。

次に、お手元にある資料の確認をさせていただきます。まず、配席図と出席者名簿がございます。もう一つの束に次第がございます。その次から資料1、資料2、資料3で、横長になっております。さらに資料4、資料5がございます。資料6が一枚紙になってございます。その次に別紙という横長の紙がございます。最後に、パンフレット「観光立国の推進」という資料がございます。不足の場合はお知らせいただきたいと思います。

続きまして、本日ご出席の委員の皆様のご紹介をさせていただきます。委員につきましては、地方交通審議会付則によりまして任期が2年ということになっておりまして、前回までの委員の方々におかれましては、全員任期が終了されましたので、今回改めて委員を選任致しております。それでは、委員名簿の順に従いまして委員の方々をご紹介させていただきます。

河北新報社代表取締役社長、一力様。東北大学大学院情報科学研究科教授、稲村様。東北大学東北アジア研究センター環境社会経済研究分野教授、奥村様。宮城県消費者団体連絡協議会会長、熊谷様。株式会社JTB常務取締役、清水様。東北経済連合会会長、幕田様。東北六県商工会議所連合会会長、丸森様。臨時委員の皆様のご紹介につきましては、名簿をもちまして替えさせていただきたいと思っております。

## 2. 東北運輸局長あいさつ

事務局

それでは、本審議会の開催にあたりまして、東北運輸局長よりご挨拶申し上げます。

東北運輸局長

東北運輸局長の佐伯でございます。

皆様、本日は年度末の大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方には日頃より、私ども運輸行政にご協力いただきまして、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

ただいま、事務局の方からご紹介させていただきましたように、今回、こちらの東北地方交通審議会委員の皆様方は、改選という形で、ある意味では新しいのですが、新たに委員になっていただいた皆様、また、前回より引き続き委員をお引き受けいただいた皆様、ご快諾いただきましたことを、心より御礼申し上げます。様々な分野の方に就任していただいております。今日の審議会におきましても、それぞれの立場から貴重なご意見を賜り、ご審議いただきたいと思います。

少し、この東北地方交通審議会のありようというものをおさらいしてみますと、今回10回ということですが、東北地方交通審議会ができましたのが、昭和59年でございます。その時まで、東北地方では陸運局と海運局という別の組織がございましたが、昭和59年に陸運局と海運局が一緒になって、運輸局という組織にまとまりました。それまでは、陸の関係で地方陸上交通審議会というものがございましたが、新たな運輸局という組織になった時に、それぞれの地方運輸局に、地方交通審議会という組織が設置されております。

この東北地方交通審議会の機能、役割、ミッションでございますけれども、私ども地方運輸局の業務の中での重要事項に関してご審議を賜り、私どもが行政をやっていく方向付けをしていただく、ということが、地方交通審議会の大きな役割とされております。最近でございますと、4年前、平成15年の3月に東北地方は特に人口が減少し、少子高齢化といった社会の中で、交通のあり方、あるいは観光振興のあるべき姿、ということについて、東北地方交通審議会に諮問させていただきました。そして、ちょうど2年前、平成17年の3月に、答申「東北地方における望ましい交通のあり方及び観光振興戦略について」、今私どもが手元に持っている最新の答申でございますが、この答申をいただいているところでございます。

いただいた答申に基づきまして、私ども交通行政、観光行政を進めていくところでございますけれども、それから2年経っております。社会の情勢の変化は非常にめまぐるしく変わっておりますので、昨年も、一度、丁度今頃の時期でございますけれども、フォローアップをさせていただき、また、今日もお話がございますように、それぞれ重点的なテーマについて、この交通審議会にぶら下がる組織を作って、新たな検討を進めている、そういうところでございます。

今回も、前回の答申のフォローアップ、それから、何か新しい動きがあれば、それに沿った新しいやり方というものについても、ご審議賜れば

というように考えております。新しい動きといいますと、特に観光の分野で昨年末に法律が成立し、今年の1月から施行されております「観光立国推進基本法」、観光に関する国の新しい施策が決められております。また、具体的な事業と致しましても、2010年までに外国から1,000万人の誘客をしようというビジット・ジャパン・キャンペーンが行われております。こういったことも、新しい法律ができ、またキャンペーンを進めていくにあたりましても、この東北がいかにあるべきか、ということはこの審議会でもご審議いただき、また私どもの仕事の方向付けをしていただければ、と考えております。

また、東北地方では広域観光の連携に関する新しい組織づくり、こういった動きも出ております。こういったもの全ての方向付けをしていただく、重要な会議と私も認識しております。

本日は、忌憚のないご意見を賜りまして、今日の審議会が是非実り多いものになりますように、よろしくお願ひしたいと思います。開会にあたりまして、事務局の方を代表してご挨拶申し上げます。どうぞよろしくお願ひ致します。

### 3. 議事

#### (1) 会長選任、会長代理指名

事務局	それでは、早速ではございますが、議事に入らせていただきます。 本日最初の議題は、東北地方交通審議会会長の選任でございます。会長の選任につきましては、地方交通審議会規則第5条第1項の規定によりまして、委員の互選によることとされております。どなたか会長をご推薦いただけませんかでしょうか。
稲村委員	東北経済界を代表して、また交通問題を含め行政に見識の深い幕田委員を、会長として推薦したいと思います、いかがでしょうか。
事務局	ただいま、幕田委員をご推薦いただきましたが、いかがでございましょうか。
一 同	異議なし。
事務局	ご異議がないようですので、幕田委員に会長にご就任いただきたいと思っておりますが、幕田委員いかがでしょうか。
幕田委員	皆様方からのご推薦でございますので、お受けさせていただきたいと存じます。 なお、地方交通審議会規則第5条第3項によりまして、会長は会長代理を指名することになっておるようでございますので、私から指名させていただきたいと存じます。これまで東北地方交通審議会の会長代理を務められ、かつまた政策推進部会の部会長としてご就任されまして、交通分野に見識の深い稲村委員にお願いしたいと存じますが、いかがでございましょうか。
一 同	異議なし。
事務局	それでは、幕田会長からのご指名があり、各委員からもご異議がないようですので、稲村委員に会長代理にご就任いただきたいと思っておりますが、稲村委員いかがでしょうか。

稲 村 委 員

了解致しました。

事 務 局

それでは、本審議会は、幕田委員を会長に、稲村委員を会長代理と致しまして、審議を進めさせていただくこととなりました。恐れ入りますが、幕田会長におかれましては、会長席までご移動のほどよろしくお願い致します。

それでは、早速ではございますが、幕田会長からご挨拶を賜りたいと思います。

幕 田 会 長

皆様のご推薦によりまして、東北地方交通審議会の会長を務めさせていただくこととなりました、幕田でございます。どうぞよろしくお願い致します。

これまで、近年の東北地方の交通状況をみてみますと、都市部におきましてはマイカーの普及によりまして、大量輸送の可能な公共交通機関の役割というものが低下しておりまして、それに伴い、交通渋滞、あるいは環境悪化などの都市問題が深刻化してきているのが実情でございます。また、公共交通機関の輸送人員の減少に伴いまして、経営の悪化による撤退という事態も起きてきております。こうした傾向は、全国的なものではございますが、人口減少、あるいは少子高齢化が急速に進展しているこの東北地方におきましては、全国に先駆けましてこうした問題が発生しております。

一方、観光についてみますと、東北地方におけるビジット・ジャパン・キャンペーンの展開によりまして、東北に対する外国人の認知度が、徐々にではございますが、高まってきてございます。また、平成20年には仙台・宮城デスティネーションキャンペーンが実施されることから、東北地方全体が広域的に連携しまして、PR活動などを展開していくことが求められているところであります。

このような中、今年6月には、東北の観光振興のための新しい組織が設立されることになっております。是非、今後の東北地方の観光振興にとって大きな起爆剤となりますことを期待致しておるところでございます。

本審議会では、2年前に出されました、「東北地方における望ましい交通のあり方及び観光振興戦略について」という答申書を、東北地方の交通や観光の現状を踏まえながら、その進捗状況やあり方についてご審議を賜りたいと思います。よろしくお願い致します。委員の皆様方には、それぞれの分野におかれまして、地域のその問題に取り組んでおられる方々ばかりでございますので、是非、活発なご審議をお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきますたく存じます。よろしくお願い致します。

一 同

(拍手)

事 務 局

ありがとうございました。

それでは、これからの進行につきましては、幕田会長にお願い致します。

## (2) 政策推進部会からの報告

幕 田 会 長

それでは、議題(2)に入らせていただきます。議題(2)は、政策推進部会からの報告でございます。答申で示されました交通・観光に関する施策の更なる効果的な推進のため、政策推進部会が前回の東北地方交通審議会で承認されました。これまで、2回開催されているということですが、この審議内容について、政策推進部会の部会長でございます、稲村委員より発表をお願いしたいと存じます。

稲村委員 承知しました。  
「資料2 地域の足となる移動手段の確保について」という資料をご覧ください。  
(資料に基づき稲村委員より説明)

幕田会長 ありがとうございます。ただいまのご報告について、事務局の方から何か補足することはございませんか。

事務局 特にごいません。

幕田会長 それでは、ただいま稲村委員からご報告のありました内容につきまして、何かご質問等がございましたらお願い致します。実現すると、本当に便利と思いますけどね。

稲村委員 実態的な問題としては、皆さん「わからない」ということですね。企業が(システムの導入を)やっておられますけれども、(地域が企業に)任せっきりみたいですね。一般的には、企業は便利な最新のシステムを入れますから、オーバースペックになってお金がかかってしまうと。自治体も「わからない」ので、最初から集まっても、わからないもの同士になってしまう。そういったところの参考になればということです。

幕田会長 実際にやってみて、大変効果が出ているという事例はあるんですか。

事務局 自治体によって様々ですけれども、既存のバスがなくなってデマンド乗合タクシーが導入された場合に、既存のバスの利用者よりもデマンド乗合タクシーの方が利用者が増えた、というようなケースもございます。

幕田会長 実施しているところはタクシー会社ですか。

事務局 実際に運行をしているところはタクシー会社です。つまり、自治体や商工会議所が運行をタクシー会社に委託するという形式になっております。

工藤臨時委員 東北のハイタク連合会の会長をやっております、工藤でございます。秋田県のハイヤー協会の会長でもございます。  
バス路線の廃止ということになると、ほとんど山間地になってしまうものですから、なかなかそういうものをやるにしても致し方ない面もあります。ただ、タクシーの事業者の事情がわからないうちに、自治体とどんどん話が進んでしまっ、その地域に1社だけであればよいですが、何社かある中で1社だけで話が進んでしまうと、競争になってしまう。ですから、そういうことをやるのであればその事業者全部で協力してやるべきと思います。  
今は、ジャンボタクシーを持っている事業者もありますし、受付方法にしても、GPSを使っているところが多いです。その設備投資はかかるわけで、デマンドバスをやらなくても、そういう設備投資はかかります。  
デマンドタクシーが安く安くやられていくものですから、通常のタクシー事業が全然ままならない。業者競争となってしまう、だいぶ問題になった地域もあります。こういう時代の流れで進めなければいけないのはわかりますが、やる際には協力してやっていただければありがたいと思っています。

幕田会長 ありがとうございます。事務局から何か、ございますか。

事務局 特にございません。

幕田会長 ほかに、ご意見等ございませんか。

稲村委員 ここで我々がまとめたデマンドタクシーは、地域住民の移動のためのタクシーですが、秋田の場合は秋田空港を中心にしてやはりデマンド型のタクシー、観光利用としてのデマンド型タクシーをやっておりまして、事前にインターネットを通して申し込んで、ある程度何人か集まって乗っていくと。そういう形もあるので、是非今年度観光の方で立ち上がる分科会でも、一緒にご検討いただければと思います。

幕田会長 ありがとうございます。他にございませんか。ないようでございますが、次に進んでよろしいですか。

事務局 もう一つの政策推進部会の議題であります二次交通の充実ということで、資料3がございます。政策推進部会を2回開催したわけでございますけれども、先程の地域の足の話の他に、もう一つ観光振興に向けた二次交通の充実ということについても、同じく政策推進部会の中で議論をされております。時間の都合もありまして簡単にご説明いたします。  
(資料に基づき事務局より説明)

幕田会長 ありがとうございます。ただいまの説明について何か質問等ございましたらお願い致します。

清水委員 この後WGでの議論になるかと思っておりますけれども、観光についてちょっとコメントしておきたいと思っております。  
ご存じの通り、観光は周遊型といいますか、バスに乗って廻る足つきの周遊型から、個人のお客様が自由に歩かれる形態が増えており、まさに二次交通、あるいは域内交通という足の問題は、これからの観光振興において重要なポイントになってきております。  
  
九州で、過日、国土交通省さんと連携をとりながら、九州の長期滞在1週間の実証実験を行いました。一番の問題は、滞在に耐えられるか、それなりの魅力があるかどうかということで、雲仙や別府、五島列島というところへ50人のお客様をお送りしたのですが、一番問題になったのが足の問題です。先程レンタカーの活用の話がありましたけれども、東北といえどもレンタカーの活用は1割、せいぜい2割で、大多数のお客様は公共交通機関あるいはタクシーを利用せざるをえないようになっております。特に九州の場合は、路線バスの活用といったところがポイントとなっております。  
色々な問題点が出てきました。本数が少ないのは皆さん分かり切っているのですが、一番問題だったのが、バス停の位置がわからないと。あるいは、初終の時刻がわからない、あるいは運賃が極めてわかりにくいと。たぶん住民の方も同じように不満を持っておられると思いますけれども、外から来た来訪者あるいは滞在者にとって、そういう問題点は極めて明らかです。まだまだ、路線バスも、利用の仕方によってはいろいろあるのではないかなというような議論になったわけです。  
同じようなことが東北でも言えるのではないかと。新幹線、飛行機が元気になっておりますけれども、問題は二次交通。私どもの色々なお客様でも、例えば仙台において高速バスに乗るのだが、高速バスの乗車場がわかりにくい。あるいは、先程の秋田のようなデマンド型の交通が整備されていればいいですけれども、特に南東北はでこういった域内の整備が極めて

遅れているところがございます。

こういったことから、これからの観光振興にとって、二次交通あるいは域内交通は大変重要であるということですので、WGで議論していただければ幸いです。

幕田会長 ありがとうございます。その他にございませんか。

### (3) 答申のフォローアップ

幕田会長 ないようでございますので、次に議題の(3)に入らせていただきたいと思っております。議題(3)は、答申のフォローアップでございます。事務局から内容の説明をお願いします。

事務局 資料4と資料5がございますけれども、答申自体の直接的なフォローアップは資料5の方でございますけれども、その前に東北地方がおかれている現状をまずは最初に認識していただきたいと考えておりました、資料4の方で簡単に色々なデータについて説明していきたいと思っております。  
(資料に基づき事務局より説明)

これが、現況でございまして、次に資料5を使いまして、具体的に答申のフォローアップの説明を続けてしたいと思っております。  
(資料に基づき事務局より説明)

幕田会長 説明ありがとうございます。引き続きまして、ただいまの説明についての質問等ございましたらお願い致します。

奥村委員 質問というわけでもないのですが、三つほど意見申し上げます。  
一つは、高速バスの利用がやはり伸びているということのお話から先程から何回かありました。  
例えば、仙台にバスターミナルがないという問題がありますが、バスターミナルを市内で作るとするのは、かなり難しい解決の方法でして、同じようなことをもう少し安上がりの工夫でできないかと考えた方がよいと思っております。例えば、この間太子堂の駅ができましたけれども、近くに仙台南部道路が通っています。  
そこで、市内の渋滞に巻き込まれる前に、例えばバス専用の出口でもいいですから、出入り口を作ってもらって、JRの駅に一番近い所にタッチすると。そこで乗り換える人は乗り換え、ゆっくり座っていきたい人は仙台駅まで時間がかかってもいいからそのままバスに乗っていくことができます。そのように、道路網の上の高速バスとJRの間の相互の利用をもう少し便利にするということで、バスターミナルができるまでの時間を待たずに、サービスを向上できる方法があるのではないかと思いますので、そういったこともご検討いただければと思います。

それから、交通と観光に関わりますが、ここで尾瀬の例が挙げられました。例えば、私は去年の夏に家族で観光に行こうということで奥入瀬に行きました。しかし、自家用車がものすごく多くて、溪流の横を歩こうとしても車の排気ガスに巻き込まれないと歩けません。

例えば、時期を決めて、観光の方は自家用車をご遠慮いただいて、例えば電気バスのようなものに乗る、というような形で、地域限定的な形で地域の環境と地域の魅力、それから交通を合わせて改善するような施策ができる余地があると思っておりますので、是非これもご検討いただければと思います。



す。

それから三つ目ですが、特に鉄道の場合、バリアフリー化を進めようとしてみると、利用者のあまり多くないところ、あるいは駅の施設が古いところでは、エスカレータとかエレベータの新設は大変です。

しかし、輸送密度が低いことを逆手にとって、例えばホームの反対側に直接バスやタクシーなどを乗り入れさせてあげるなど、密度が低いことを逆手にとったような解決策が実はあるのではないかというようにも思います。輸送密度が下がっていることは全体的には苦しいことではありますけれども、悪いことばかりではないのではないかと思いますので、そういった知恵というものこれから絞っていければと思います。

幕田会長

ありがとうございました。事務局から何かございますか。

事務局

企画観光部の三橋でございます。皆様からいただいておりますご意見を踏まえまして、答申に記されております施策をさらに一層推進して参りたいと思います。

幕田会長

その他何かございませんか。なければ、次の議題に進んでよろしゅうございますでしょうか。

#### (4) 観光WG (仮称) の設置

幕田会長

それでは、次の議題4は観光WGの設置について、とございます。事務局から、内容の説明をお願い致します。

事務局

(資料に基づき事務局より説明)

幕田会長

ありがとうございました。ただいまの事務局の提案につきまして、質問等ございましたらお願い致します。

稲村委員

難しいお願いですが、東北運輸局は東北6県ですが、これから国土交通省で進めている広域地方計画が策定されますが、それですと東北7県で、新潟まで含まれています。そうすると、運輸局がまたがってしまうので、実際、東北運輸局の中で新潟まで含めるのは色々問題があるかもしれませんが、観光の周遊などを考える時には、山形や福島の方へ行くと新潟との関係は強いわけで、参考でもいいですから、データ等を含めて新潟を、括弧付きでも結構ですから、何らかの形で一緒に東北7県で考えていただけるようお願いできないでしょうか。

幕田会長

確かに、新潟は色々なくくりで入ったり入らなかったりするわけですが、観光の面では確かにつながりが色々あるのでございますね。何かこの辺で、いい知恵を出していただけませんでしょうか。

事務局

なかなかいい知恵をというところで難しいところがございますけれども、まず初めに、東北は先程申し上げましたように、今後の予定として、東北運輸局長から審議会の方に諮問するとなっておりますが、運輸局の管轄が6県となっております。これは建前的な話になるところもございまして、実際に基本計画を策定するにあたりましては、先程新潟の話が出ましたけれども、新潟に限らず他の地域との連携、例えば北海道ですとか、北関東ですとか、そういったところとの連携も必要になってくるという話も出てくるかもしれませんので、具体的に基本計画を策定するにあたって、

そういう色々な話が出てきた時に、メンバー構成も含めて、全体について検討していければいいのかなと思っております。

東北運輸局長

今、企画課長の方からも基本的な考え方として事務的なお答えをさせていただきましたが、東北運輸局が東北6県になったのも、そう昔のことではございません。新潟に運輸局が今ございますけれども、ご存じの通り秋田と山形はもともと北陸信越運輸局に入っていました。北陸信越運輸局と私どもの東北運輸局では人の面でもかつて相当交流があつて、言ってみれば兄弟の運輸局同士でございまして、色々な情報交換を、普段からもしております。

物流の世界でも、新潟を入れないとなかなか議論が難しい。ちょうど別の場で、やはり色々な先生からご指摘がございまして。

そういうことで、北陸信越運輸局とよく話をして、そうは言っても、新潟を東北に取り込むというのは、向こうの本陣を取り込むので、向こうとしてもかなり立場はあると思ひますけれども、ただ、広域連携広域連携と各県でお願いをしながら運輸局同士の連携が全然なっていない、人にはお願いして自分でやらないのではなく、北陸信越運輸局とよく話をして、向こうの立場も尊重しつつ、少し広域なもの、特に今ご意見が出たように新潟についてどう扱うかということについては、少し真剣に北陸信越運輸局と話をしていきたいと思ひます。

今課長が申しあげましたように、当然、青森と北海道の南、それから福島と北関東、これとのつながりは極めて重要でございます。特に北海道、北関東については、大変観光、あるいは交通でつながりが深いので、そのところを充分ににらみながら、話し合いを進めて参りたいと思ひます。

幕田会長

ありがとうございます。前向きなご意見をいただきまして、ありがとうございました。

今の観光の関係では、現在、新たな推進機構の設立準備を進めておりますが、これは新潟県も入った東北7県と経済界とが一体となった取組であります。また、北海道と東北7県の各知事さんと経済団体とで構成する「北海道・東北未来戦略会議」では、広域的な連携による観光振興についても検討を行ってきております。

確かに、役所の縄張りというところとちょっと語弊がありますがけれども、要するに実益をあげればいいのかという観点から、実質的に参画していただくということでもいいのではないかと思います。例えば、オブザーバーみたいな形で声をかけて、向こうが『いや、私のところは結構です』という場合は、それはそれでいいのですけれども、『是非参加したい』と言え、参加していただいて、幅広く意見、知恵を集めるというのは大事かと思ひます。是非、知恵を絞ってお願いしたいと思ひますが、そういうことでよろしゅうございますか。

その他に何かございませんか。

丸森委員

新潟の件でございますが、先日東経連の観光文化委員会がありまして、この6月に東北観光推進機構を立ち上げる話になっておりますが、実は去年初めてこの観光文化委員会で、各県の観光部長さんもしくは観光課長さんをお呼びして、色々広域観光についてのご意見を聞こうということで会議をしました。

新潟の話が出ましたのであえて申し上げたいのですが、その会議の中でケースによって東北と一緒に広域観光という話もございました。その時に新潟の女性の観光の方から大変鋭い逆襲がありました。「ここにおられる東北6県の方達は、佐渡島観光を広域観光なんかに考えていますか」と。それで辟易したことがありました。

つまり、その新潟の女性の方は、東北の観光の皆さんが観光一本、広域観光といっても、東北と新潟はまさにケースバイケースだ、というようなことをおっしゃりたかった、というそんな感じがしました。

ですから、今度の推進機構の場合には、よほどその辺をよくアプローチしてやらないといけないのではないかと。但し、確かに会長が仰ったように東北7県の知事さん達の集まりの時は、新潟の知事さんも大変積極的なご発言をいただきましたので、その辺は期待しております。そんなことがありましたのでご報告致します。

幕田会長 ありがとうございます。その他ございませんか。よろしゅうございましょうか。

それでは、ただいま提案いただいたWGの設置について、これは、よろしゅうございませうか。ご承認いただいたということによろしいでしょうか。

一 同 異議なし

幕田会長 それでは、意見がないようでございますので、政策推進部会の下に観光WGを設置するということにしたいと思いますが、今後の進め方について事務局から説明をお願いします。

事務局 はい。ただいま設置についてご了承いただきました観光WGでございますけれども、そのメンバーや今後の進め方につきましては、後日、本日観光のご専門として委員にご参画いただいております清水委員とご相談の上、また、政策推進部会長である稲村委員のご了解を得ながら進めさせていただきますと考えております。

幕田会長 ただいま事務局から観光WGのメンバーの選任とか今後の進め方につきましては、提案の通りですが、これについて何かご意見ご質問等ございましたらお願い致します。

特にございませうでしたら、よろしゅうございませうか。

それでは、観光WGグループの具体的な人選あるいは今後の進め方につきましては、清水委員とよくご相談の上、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は、各委員から色々な貴重な意見を頂戴致しましたが、事務局はいただいた意見を踏まえまして、これからの交通・観光行政を進めていただきたいと思ひます。

#### 4. 閉会

幕田会長 以上で議題は終了となりますが、事務局にお返ししてよろしゅうございませうか。

事務局 委員の皆様方には、長時間のご審議を大変ありがとうございました。これをおもちまして、第10回東北地方交通審議会を閉会致します。本日はお忙しい中、ありがとうございました。

〔了〕